

## 平成23年度 第5回社会福祉学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成24年2月13日(月) 10:00~12:00
- II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者: 渡辺委員 山路委員 井上委員(ネット) 天野アドバイザー  
(事務局) 井端事務局長 森下主幹 松本職員

### IV. 議事概要

#### 1. 学士力実現に求められる教育改善モデルについて

前回に引き続き、教育改善モデルの授業の点検・評価・改善について検討した。

#### 2. 検討事項

##### 教育改善モデル(その1)

前回までにまとめた内容について、以下の視点で検討を行った。

- ①学内の学生および教員による自己評価
- ②他大学(福祉系)の教員による相互評価
- ③当事者団体および支援団体による評価
- ④社会福祉の専門機関による評価

##### 主な意見

- ・第三者機関として、学会とは別の教育専門の機関があり、そこでは既にモデル授業の討論をしている。他大学の教員の評価とともに社会福祉の方向づけを行っているそのような機関とも連携する必要がある。
- ・学内の教員の評価、地域エリアの評価、全国レベルでの評価などもあるが特定の機関を決め付けられないほうがよいのではないか。
- ・学内での授業や演習の振り返りをどこまで考えるのか。システマチックに描ければよいのではないか。
- ・心理学や社会学、福祉系の科目だけでなく福祉以外の関連科目との連携をどのように関連付けて、その中で態度教育が身に付いているか、どのように点検していくか。
- ・福祉系の学びの中で概説できるレベルになるには、どのように落とし込むのか。考える仕組みを描ければよいのではないか。
- ・到達度にある背景、事例、実際の福祉制度の関連付けをどのように落とし込むのか。
- ・大学の中でカリキュラムを組まれているが、どのように落とし込んで改善していくのか。話し合いの仕組みを描いたほうがよいのではないか。
- ・カリキュラムの構成まで振り返りの対象になるのではないかと。単なる授業のやり方でなく、そのような話し合いができる仕組みを描いたらよいのではないか。
- ・資格試験も大事だが、資格の根源となる基本的な素養を身につけさせることに重点をおくべきではないか。

などの意見があり、最終的に以下のようにとりまとめた。

#### 教育改善モデル（その1）

##### 授業の点検・評価・改善

この授業の点検・評価・改善は、学生が身に付いた力を記入した学習ポートフォリオ及び教員の評価シート等を組み合わせて、社会福祉の担当教員と社会学、心理学、法学及び医療系等の関連科目の教員で情報を共有し、ネット上で意見交流を行う。

その中で社会福祉の意義が体得できているか、総合的に判断できているか、カリキュラム全体の枠組みについて振り返りを行うとともに、授業内容及び運営の方法等について、他大学教員、関係団体のコンソーシアムからの客観的評価を受けることにより、具体的に授業を改善する。

##### 教育改善モデル（その2）について

教育改善モデル（その1）の文案をもとに、下記視点を盛り込みんでとりまとめた。

- ・ソーシャルワークの使命が理解できているか。
- ・社会制度の現状や現行制度の限界を学んでいることを前提としている。
- ・外部機関との連携、意見交換を行う。

等を検討し最終的に以下のようにとりまとめた。

#### 教育改善モデル（その2）

##### 授業モデルの点検・評価・改善

この授業の点検・評価・改善は、学生が身に付いた力を記入した学習ポートフォリオ及び教員の評価シート等を組み合わせて、社会福祉の担当教員と当事者団体、職能団体等とで情報を共有し、ネット上で意見交流を行う。その中でソーシャルワーク実践について、その目的・価値・倫理・人権尊重等を理解し、身に付いているか外部評価を受け、振り返りを行うとともに、授業内容及び運営の方法等の仕組みについて改善を行う。

## 2. 今後のスケジュールについて

今年度の検討内容は今回委員会で終了とし、来年度は今回作成したモデルをもとに、モデル実現のための教員の教育力について検討し、冊子刊行に向け編集作業を行う。

## V. 次回の開催日程

日時：平成24年4月以降に開催（メーリングリストにて調整）